

登録コード	L2910100	開講年度	2026				
担当教員	速水 香織 他			副担当	中澤 光平・鈴木 裕也		
授業科目	人文科学通論Ⅰ【EA】						
英文授業名	Introduction to the HumanitiesⅠ						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	月曜・2時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目	該当	読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	人文諸学で扱われるテーマを追求することで、これまでの常識を見直し、学術的に裏付けられた思索を展開する力を養う。		
	【2022年度以前カリ対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			⇔	人文学の理解を通して、現代社会の様々な問題を視野に入れた多様な価値判断を行うことができるようになる。		
	【2022年度以前カリ対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多面的に判断することができる受容力			⇔	分野横断的な事柄を理解し、そこから新たな問題を発見・解決する能力を養う。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	人文諸学で扱われるテーマを追求することで、これまでの常識を見直し、学術的に裏付けられた思索を展開する力を養う。分野横断的な事柄を理解し、そこから新たな問題を発見・解決する能力を養う。人文学の理解を通して、現代社会の様々な問題を視野に入れた多様な価値判断を行うことができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	この講義は、人文学部における学修の「導入科目」であり、広く人文学部の各専門の内容を横断しながら、人文科学における創造性、課題解決能力、そして言語やテキストを通したコミュニケーション能力を養う。多様な知的背景をもとに遂行される「生きた人文学」の実践にふれることを通じて、受講生には、「多面的な人文知のあり方」を通覧的に理解するための視点を獲得すると共に、「人文学を学ぶこと」の喜びや感動を体験し、自身の興味や関心を広げ深めるためのきっかけとしてもらいたい。 「人文学とは何か」をめぐって、哲学・芸術論、社会学・情報論、心理学・社会心理学、歴史学、比較言語文化、英米言語文化、日本言語文化の7つの専門コースの教員がオムニバス形式で講義を行う。各々の講義は「人文学とは何か」「人文学は現実の社会とどのように結びつくのか」などの観点から、各専門コースの特色を知る好機ともなる。						
授業計画	「授業の概要」に示された内容にしたがって、以下のように進行する（専門コースの登場順番は変更することがある）。具体的な進め方は教員によって若干異なる場合がある。 第1回：ガイダンス 第2回：日本言語文化 1/2 第3回：日本言語文化 2/2 第4回：哲学・芸術論 1/2 第5回：哲学・芸術論 2/2 第6回：文化情報論・社会学 1/2 第7回：文化情報論・社会学 2/2 第8回：心理学・社会心理学 1/2 第9回：心理学・社会心理学 2/2 第10回：歴史学 1/2 第11回：歴史学 2/2 第12回：比較言語文化 1/2 第13回：比較言語文化 2/2 第14回：英米言語文化 1/2 第15回：英米言語文化 2/2 定期試験なし、授業アンケートを実施します。						
成績評価の方法	「授業の概要」に示された、「多面的な人文知のあり方」を通覧的に理解できたかどうかを確認し、さらにそうした理解をもとに、人文科学における創造性、課題解決能力、言語やテキストを通したコミュニケーションへとつなげる視点を得られているかどうかを確認するテストを行う。具体的には、各専門の授業後にeAlps上でテスト（計7回）を行い、その成績に基づいて成績評価を行う。						
成績評価の基準	総合得点が90点以上の場合、「卓越している」と評価する。80-89点の場合は「優れている」、70-79点の場合は「やや上にある」、60-69点の場合は「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	配布された資料等を熟読し、毎回の授業内容の理解に努める。また、人文学と現実社会のつながりについて熟慮し、仲間たちと議論することで、「人文学部における4年間の学び」について考えを深める。						
履修上の注意	・人文学部でのあらゆる教育の基礎を形成する授業であり、人文学部の必修科目である。 ・各授業では、e-Alpsを利活用したテストも課される。 ・この授業は、対面開講・オンライン（リアルタイムオンライン・オンデマンド）を併用して行われる。詳しくはガイダンス時に説明があるため、ガイダンスで詳細を確認すること。						

履修上の注意	・ガイダンスは人文学部4番教室にて対面開講。（それ以外の対面開講の回は共通教育20番教室が使用される予定である） ・生成AIの使用について 本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし、「思考の代行」としてではなく、「学習補助」としての利用に限定する。具体的には、文章の推敲、文献・事例の探索等に用いるにとどめ、自分の主張の核（問い、立場、論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また、AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって、レポート等で論拠として挙げる文献については、AIの要約や二次情報のみに依拠せず、必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し、内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で、生成系AIを利用した場合は、利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること、原典確認、利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合、減点の対象、または不正行為として取り扱う場合がある。
質問、相談への対応	初回授業の際に伝える。
教科書	各授業に即して資料等を配布する。
参考書	その都度、別途指示する。